



平成21年度 岡山県立岡山操山高等学校
自己推薦による入学者選抜適性検査I (60分)

太郎さんは、ふだんからいろいろなことを体験してみたいと考えていて、農村に田植えの手伝いに行ったり、ホストファミリーとして留学生を受け入れたりしています。ここでは「体験」に関する以下の問題①・②について考えてみましょう。なお、答えは横書きで書きなさい。

① 次の文章を読んで、以下の問い（問1～4）に答えなさい。

①世間では、本や映像を通して得る知識よりも、「生の体験」のほうが大事だとしばしば言われる。

確かに、単に他人から聞いて知ったことよりも、自分自身で体験したことのほうが魂の(ア)エイヨウになることは事実である。いわゆる学校の「優等生」や「秀才」が物足りないのも、生の体験が足りないからだと思われる。社会に出てからの実務経験が人を育てる。教科書の知識だけを通して社会をイメージしていても、限界があるのだ。

2006年に生誕250周年を迎えたモーツァルトも、その天才が開花したのは、幼少の頃から当時の宮廷における音楽の現場に接するという生の体験があったからだと考えられる。いくら英才教育とはいっても、音楽家が人びとの前で演奏する現場から離れ、「囲い込まれた」人工的な場所だけで鍛えられるのでは限界がある。「モーツァルトの天才」は、当時の音楽シーンにおける生の体験によって鍛えられたのである。

何が起こるかわからない複雑怪奇な現代社会を生き抜く。そのためには、生の体験が必要である。ここまでは多くの人が同意したとしても、では、生の体験の本質とは一体何なのかと、改めて問われると考え込んでしまうのではないか。どうしたら、いわゆる「お勉強」を超えた体験を深めることができるのか、その方法論がわからないというのが多くの人びとの実感ではなかろうか。

生の体験の意義として「自分の身体を実際に動かす」ということが言われる。確かに、手足を使って何かをするということが、脳にとって格段の(イ)シゲキになることは事実である。稲作について教科書でいくら学んだとしても、実際に田植えをしてみるという経験にはかなわない。どんなに知識を積み上げたとしても、そこから予想されることを裏切る要素が、必ず生の体験の中にはある。そのような意味で、身体を動かすことが私たちに深い学びをもたらしてくれることは、疑いのないところである。

しかし「身体を動かす」ということだけで、生の体験の意義が説明し尽くせるわけではない。脳の中の「記憶」という視点から見ると、生の体験にはきわめてユニークな特性がある。それは、生の体験には、特定の意味に整理される以前、すなわち「編集前」のノイズが豊富に含まれているということである。

書物や映像を通して得られる知識は、誰かがすでに整理し、編集してくれたものである。そのような情報源を通して学ぶことは(ウ)コウリツが良いし、必要なことではある。その一方で、自分で工夫し、言葉にならないものを何とか言葉にしていくという能動的な側面に欠けてしまうことになる。

体験の記憶は、脳の脳皮質の側頭葉に蓄えられる。脳に蓄積された記憶は長い年月をかけて徐々に編集され、その中で次第に「意味」が立ち上がっていく。最初から「意味」を与えたり、押しついたりするのではなく、②様々なノイズに満ちた生の体験から、自ら「意味」を見いだす編集作業こそが、私たちの脳を本当の意味で鍛える。

モーツァルトが置かれていた当時の宮廷の状況を想像してみよう。音楽を演奏している現場は、様々な余計なもの、猥雑な出来事に満ちていたに違いない。あまり熱心に音楽を聴かずに、あくびをしている貴族。やる気がなさそうに演奏している音楽家。突然、王様が入ってきて、演奏が中断されてしまったかもしれない。そのような生の現場だけが持つノイズがモーツァルトの脳を鍛えた。現代人のように、完璧な演奏を録音で聴いているだけでは、能動的に意味を見いだす脳の力を引き出すことはできないのである。

(茂木健一郎『それでも脳はたくらむ』による)

※ 猥雑 … ごたごたと入り乱れているさま。



問1 下線部(ア)～(エ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 下線部①「世間では、本や映像を通して得る知識よりも、『生の体験』のほうが大事だとしばしば言われる」とありますが、筆者は「生の体験」に含まれる、どのような点が「大事」だと述べていますか。

問3 下線部②「様々なノイズに満ちた生の体験から、自ら『意味』を見いだす編集作業こそが、私たちの脳を本当の意味で鍛える」について、以下の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) これまでにあなたが体験した「様々なノイズに満ちた生の体験」の例を1つ挙げなさい。

なお「ノイズ」にあたる部分には、下線を引きなさい。

(2) (1)で挙げた体験について、あなたは現時点においてそこからどのような「意味」を見いだしていますか。説明しなさい。

問4 文中の二重下線部に関して、太郎さんは田植えの手伝いをした体験を通して農業に興味をもち、日本の農業について資料を集めました。図1～3を見て、以下の(1)～(3)の問いに答えなさい。

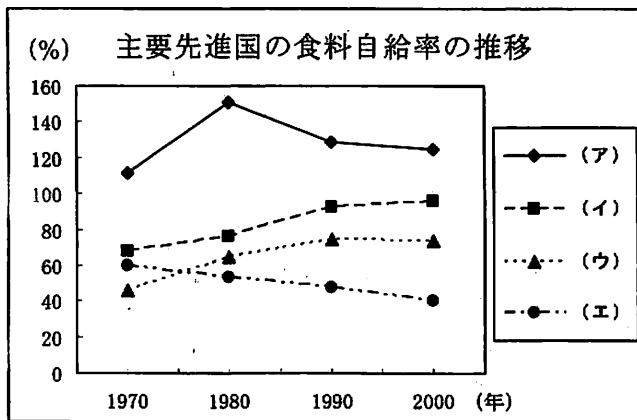


図1

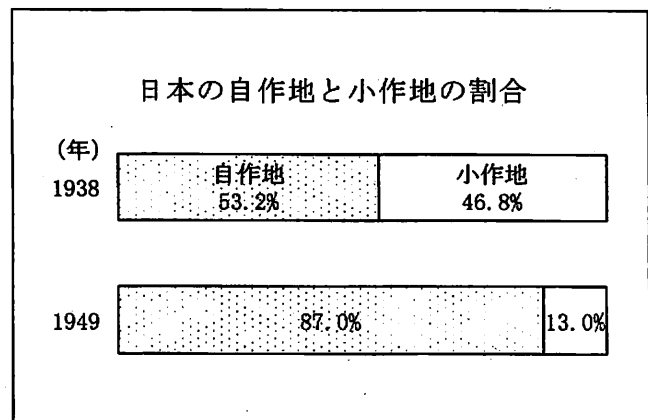


図2

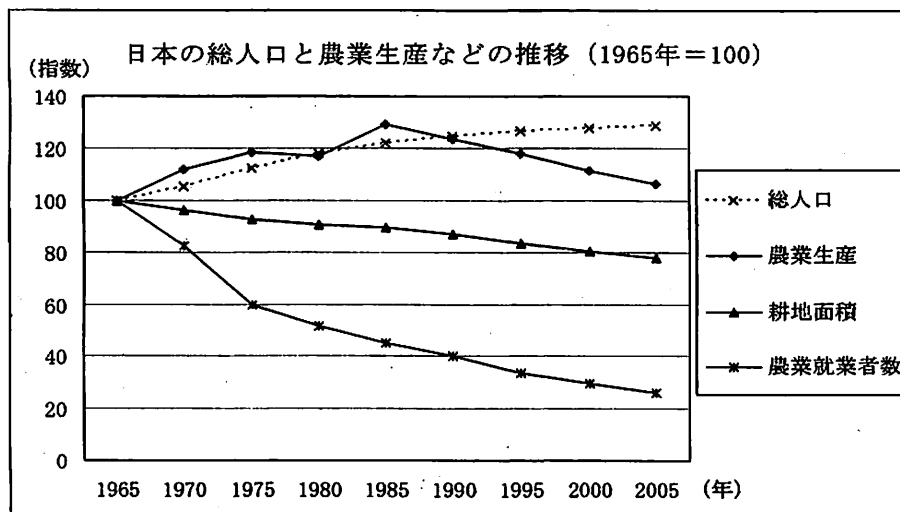


図3

(注) 図3について、

1. 農業生産とは、農産物（米・野菜・果実・肉など）の生産量である。

2. 指数とは、2005年の農業生産を例にとると、

$\frac{2005\text{年の農業生産}}{1965\text{年の農業生産}} \times 100$ である。

図1：農林水産省「食料需給表」（供給熱量にもとづく）、FAO資料を基に農林水産省で試算した統計による。

図2：農林省統計調査局資料による。

図3：総務省「国勢調査」、「労働力調査」、農林水産省「農林水産業生産指数」、「耕地及び作付面積統計」を基に農林水産省で作成した統計による。



- (1) 図1は、日本・アメリカ合衆国・イギリス・ドイツの食料自給率の推移です。(7)～(E)のうち、アメリカ合衆国のものを選び、記号で答えなさい。
- (2) 図2は、1938年と1949年の日本の自作地と小作地の割合です。自作地が増えることになった出来事は何ですか、漢字で答えなさい。
- (3) 図3は、1965年を100とした日本の総人口と農業生産などの推移です。これについて、以下の(a)・(b)の問いに答えなさい。
 - (a) 図3からどんなことが読みとれますか、説明しなさい。
 - (b) (a)で読みとったことについて、その原因や背景として考えられることを説明しなさい。

2 太郎さんの家にホームステイしている Kate は和菓子作りに興味を持ち、近所の和菓子屋のご主人清治 (Seiji) さんに話を聞きに行きました。清治さんは若い頃、京都にある和菓子屋の河村さん (Mr. Kawamura) のもとで働き、技能を身につけました。次の英文は清治さんから聞いた話を、Kate が英語でまとめたものです。これを読んで、以下の問い (問1～4) に答えなさい。

Seiji started working at Mr. Kawamura's *wagashi* shop in Kyoto when he was fifteen years old. He worked there from morning to night every day and learned a lot. Seiji's day started with cleaning the house at six in the morning, and *ended with cleaning the kitchen at eight in the evening. In this way he started his training to be a good *wagashi* maker. First he had to learn to tell good *beans and sugar from bad, and then about cooking them. He had to work hard before he was able to make *wagashi*. He spent a long time getting ①the skills he needed to make *wagashi* for the shop.

Mr. Kawamura always told him that *wagashi* is an art of the *five senses. You can enjoy each *wagashi* in different ways. You *check how it looks, how it smells, and then how it feels in your hand and in your mouth before you *taste it. How a *wagashi*'s name sounds when it is spoken is also important. Many *wagashi* names are taken from beautiful Japanese place names or sometimes from people's names in *Genji-monogatari*. Seiji was surprised to find that ②*wagashi* was much *deeper than he thought. Again and again, Mr. Kawamura told Seiji that it is of course important to learn how to make *wagashi*, but that it is more important for a *wagashi* maker to learn a lot about Japanese culture.

Seiji knew he needed to make his own *wagashi* to open a shop. He worried about it a lot. Just *copying others' *wagashi* does not *move anyone. Mr. Kawamura said so very often.

One day, Seiji visited Nara and saw a very beautiful *scene. It was so moving that he could not *forget it. He wanted to make a *wagashi* to show the beautiful scene. Every day he spent all his time making his new *wagashi*.

Three months after he started it, Seiji finished making his own *wagashi*. He took it to Mr. Kawamura and asked him to try it. When he ate Seiji's new *wagashi*, he did not say anything but smiled. ③It was the first smile that he showed to Seiji.

*ended 終わった *beans 豆 *five senses 人の五感 *spent (～することに時間)をかけた
 *check ～を確かめる *taste ～を味わう *deeper より深い *copying ～をまねること
 *move ～を感動させる *scene 景色 *forget ～を忘れる

- 問1 下線部①について、清治さんがここで学んだ和菓子作りの技能を、日本語で説明しなさい。
- 問2 下線部②について、それはどういうことですか、日本語で説明しなさい。
- 問3 下線部③について、このときの気持ちを、河村さんになったつもりで英文で表現しなさい。
- 問4 清治さんの話の中で、**1** の日本文にある『編集前』のノイズにあたるのはどのようなものですか。日本語で説明しなさい。